

第6回仙台カップ国際ユースサッカー大会・活動報告書

期間 2008年9月11日(木)～15日(月・祝)

場所 ユアテックスタジアム仙台 (宮城県仙台市)

主催 日本サッカー協会・宮城県サッカー協会・仙台市ほか

参加チーム ブラジル・日本・フランス・韓国各U-19代表 (最終成績順)



2002年、世界最大規模のスポーツイベントが日本各地そして宮城で開催されました。それがサッカーFIFAワールドカップ、巨大な宮城スタジアムが建設され、やがてイタリアに仙台をキャンプ地を選ぶなどしたこと、町中に明るい祭りムードがあふれたものでした。そのピークはなんとといっても6月18日、日本代表が予選リーグを1位で勝ち抜き、宮城スタジアムでトルコとのゲームに臨んだ時だったと思います。やがて祭りは終わりました。しかし、サッカーの素晴らしさ、国際交流の楽しさは多くの人の記憶に残りました。そして、翌2003年からスタートしたのが「仙台カップ」、次代を担う18歳以下の大会として、既に5年の歴史を刻んできたのです。

ボランティアの活動報告



仙台カップはそのスタート段階から当日の運営を多くのボランティアがサポートしています。今年も連日多くの方が参加しました。通常のサッカーイベントと違い開催日が続くことや、最終の2日間は1日の中でそれぞれ2ゲームが行われるなど、立ち通しでの活動は決して楽なものではありません。それでも、観客や主催者スタッフからの感謝や激励の声にも助けられ、無事に役割を果たせました。何より共に活動した仲間へ感謝したいと思います。



仙台カップボランティア

(申し込み段階/変更分は反映していません) 単位:人

	9月11日	9月12日	9月14日	9月15日	合計
ボランティア人数	47	41	37	35	160
内SV	9	8	2	6	25

今年のボランティア活動の内容は、「入場ゲート係り」「車イス誘導・指定席係り」「エコステーション係り」「総合案内係り」「車いす・ボランティア係り」で、主要なポジションにはトランシーバーを持った主催者のスタッフで常時ついてくれたこと、時間帯によつての支援体制が適切に行われたこと、ゲーム中を中心に可能な限り休憩回数を増やしてくれたことなどで、特定のポジションに負担が集中することはありませんでした。

大会の様子

仙台カップは今年から昨年まで参加していた「東北代表」に代わり、「韓国代表」が参加することとなりました。地元の選手の活躍（昨年東北代表はブラジル代表にも勝利、大活躍でした）を観るチャンスがなくなったのは残念ですが、隣国韓国代表を加えたことで従来あまり無かったスタンドからの応援風景がみられるようになりました。なじみの「テーハミング」という声援と赤いTシャツ、逆に日本をはじめ他の国にも応援団がほしいと感じるほどでした。



同時に、子供たちの姿が多かったのも大きな特色でした。それぞれのチームのユニフォームを着て観戦する姿や、多くの親子連れが来場、最終日には7千人を超える観客となりました。1日目・2日目には各国の代表選手が直接ピッチで子供たちに指導する企画も行われ、大人気だったと聞いています。今年で6回、決して派手なイベントではありませんが仙台の9月の楽しい企画として育てていってほしいものです。

プラス1



来場された方は気づいたでしょうか。男女の手洗いのところに、今回もペットボトルの容器にいけられた花が飾られていたことを。サッカーやバスケの会場でも続けているボランティア有志が今回も自発的に飾ってくれました。ご苦労様でした。

2008年9月17日 記録 (K・I)